ＪＲ東海労幹関西地「申」第３２号
２　０　１　５　年　１　月　１　４　日

東海旅客鉄道株式会社
新幹線鉄道事業本部関西支社
支社長　　田中　　守殿

ＪＲ東海労働組合新幹線関西地方本部
執行委員長　　小林　　國博

パンタグラフ「舟体誤取り付け」の対策に関する申し入れ

昨年５月に発生したパンタグラフ「誤取り付け」に関する申し入れに基づき８月２２日、会社と業務委員会を開催したが疑問は全て払拭されずに終了した。

今年１月５日、このパンタグラフ「誤取り付け」に関する記事がマスコミ報道された。マスコミの複数の報道によると、会社の安全に対する姿勢に関する専門家の指摘や意見、会社側のコメントが掲載されており、現在も社会的には不安と疑問が払拭されていない状況である。さらに、安全を築く上では、責任追及ではなく原因究明によってその再発防止の具体的対策を行うべきである。

よって、下記の通り申し入れるので早急に労使協議の場を設定すること

記

１．昨年５月１７日に発見されたパンタグラフ「誤取り付け」に関して、発生以降も国土交通省には報告していないのか明らかにされたい。

２．報道によると「正常に取り付けられていないまま走行するのは安定輸送の面から好ましくはない」と国土交通省のコメントが載せられている。１月５日の報道以降、国土交通省から「誤取り付け」に関する国交省への報告要請はあったのか明らかにされたい。

３．１月５日のマスコミの報道記事によると、「同じ会社が新幹線の保守作業で二度目の大きなミスをしたことは看過できない」と専門家がコメントしている。このコメントについての見解を明らかにされたい。

４．該当の車両は「誤取り付け」後の６回の定期検査で発見されないまま１２日間の営業運転を行った。

①「誤取り付け」を行ったといわれている作業の現場には管理者が立ち会っていたのではないのか。明らかにされたい。

②管理者が立ち会っていたにも関わらず、「作業ミス」が発生してしまったことに対する会社の見解を明らかにされたい。

③当日の作業時間を含む作業をする環境には問題はなかったのか会社の見解を明らかにされたい。

④当該の作業者が作業時間に追われるなど作業に集中出来ない環境にあったのではないのか。会社の見解を明らかにされたい。

５．パンタグラフ「誤取り付け」については作業者の注意力のみに頼ることよりも、誤取り付けが発生しない抜本的な具体的対策が必要であると考える。会社としては、具体的対策を検討する考えはないのか。会社としての見解を明らかにされたい。

６．専門家からは「作業の頻度が少ないのなら、作業に不慣れな人が多く、ミスが発生しやすいという前提に立った対策を取るべきだ」「逆に取り付けた場合の危険性をＪＲ自体も認識しているなら、接合部の構造を改良するなど見直す余地はあるはず」と指摘している。これはヒューマンエラーの前提に立った意見であり、逆向きの取り付けが不可能となるボルト位置の変更などの接合部の構造的に改良することが必要である。会社の見解を明らかにされたい。

７．昨年５月１７日の発見以降、５月５日の舟体取り替え作業時に撮影した写真と５月１７日に誤取り付けが発見された時の写真が撮影されているにも関わらず、今だに作業した本人や現場の社員にも明らかにされていない。再発防止の観点から写真は公開するべきである。会社の見解を明らかにされたい。

以上